

# 正しく理解しよう認知症

住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく暮らしたい。誰もがそう思うものです。しかし、その願いをはばみ、深刻な問題となっているのが、認知症です。今や認知症は誰もが関わる可能性のある身近なものです。認知症について知り、考えるきっかけとして、今回は認知症の特徴や市の認知症に関する事業についてお知らせします。

**問い合わせ** 長寿介護課高齢者福祉係（ブラザげやき内 ☎ 37-1254）

## 年々増加する認知症患者

厚生労働省は、全国で認知症を患う人の数が、令和7年には700万人を超えるとの推計を発表しました。超高齢社会を迎え、高齢者や認知症の人をいかに支えていくかは、地域社会における重要なテーマとなっています。

## 認知症施策の動向

国では、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すため、「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」を推進しています。また、令和元年6月には「認知症施策推進大綱」が取りまとめられました。大綱の中では、「認知

症はだれもがなりうるものであり、多くの人に身近なものとなっている。認知症の発症を選らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら、『共生』と『予防』を車の両輪として施策を推進していく」と基本的な考え方が示されています。

菊川市でも新オレンジプランや認知症施策推進大綱に基づき、認知症の人やその家族が安心して、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、また本人や家族の視点を取り入れながら認知症施策に取り組んでいます。

今後、令和5年6月に国会で成立した、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の方針に基づき、認知症の人を含めた国民一人ひとりが

その個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会の実現に向けて取り組んでいきます。

## まずは認知症を知ること

認知症は、原因となる病気の進行とともに状態が変化するため、その状態に応じて適切な支援を受けることが大切だとされています。

もし、認知症になった時にどのような生活が出来るのか、また、家族や大切な人が認知症になった時にどのように支えることができるのか、まずは認知症について正しく理解することが大切です。



## オレンジリング…

「認知症の人を応援します」という意思を示すリングです。認知症サポーター養成講座を修了した人に渡されます。

